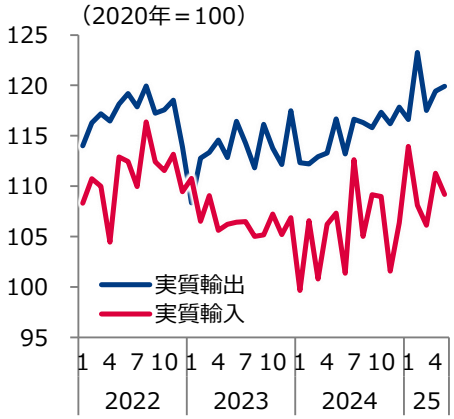
日本

貿易統計（2025年5月）

実質輸出は堅調、トランプ関税コストは輸出企業が吸収

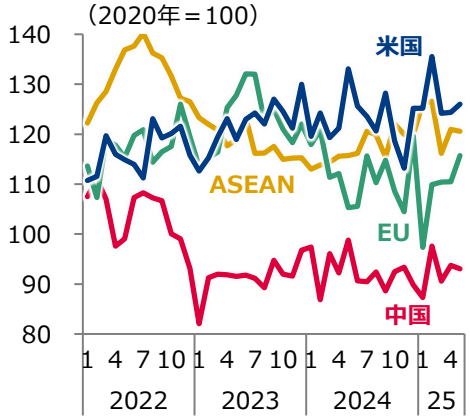
政策・経済センター
田中嵩大・山本道也
03-6858-2717

1 実質輸出入



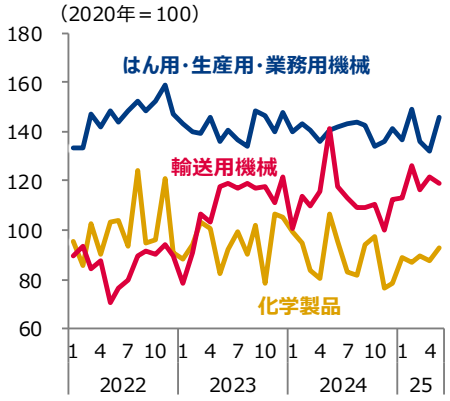
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

2 実質輸出（相手国別）



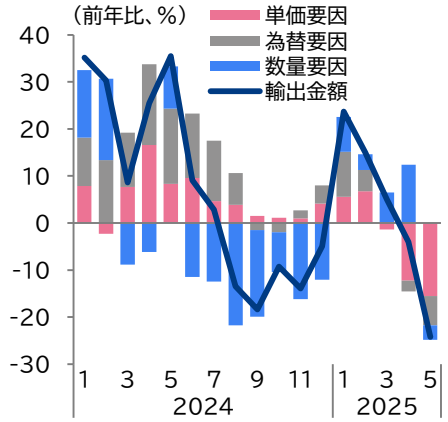
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

3 米国向け実質輸出（品目別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

4 対米乗用車輸出金額の要因分解



出所：財務省「貿易統計」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比+0.4%と小幅ながら2カ月連続の増加となった（図表1）。
- 実質輸出について地域別にみると、EU向け（前月比+4.8%）が増加に寄与した一方、中国向け（同▲0.8%）やASEAN向け（同▲0.3%）は小幅のマイナスとなった（図表2）。
- 関税による影響が注目されていた米国向け実質輸出は、同+1.3%の増加となり、底堅く推移している。品目別にみると、はん用・生産用・業務用機械（同+10.1%）、化学製品（同+5.7%）が増加した（図表3）。
- 輸送用機械（同▲1.9%）は減少したものの、5月3日に発効した自動車部品関税の影響などがある中、小幅の減少にとどまったといえる。
- 米国向け実質輸出が底堅い背景には、輸出企業が関税コストの上昇に対して、輸出数量を維持するために単価を下げて対応していることが考えられる。例えば、米国向け乗用車輸出額を要因分解すると、数量以上に単価の減少幅が大きい（図表4）。

基調判断と今後の流れ

- 実質輸出は、トランプ関税による逆風の中でも堅調に推移している。
- 先行きの実質輸出について、関税コストを輸出企業側が吸収する現在の状況が、いつまで持続するかが注目だ。過去の円安局面において多くの輸出企業は高収益を上げてきたことから、当面はコストを吸収する余力が残されている可能性があると考えられる。
- しかしながら、為替が円高方向に推移していることに加え、前述の自動車に関しては、更なる関税率の引き上げの可能性も示唆されている。関税コストを輸出価格に転嫁せざるを得ない事態となれば、需要の減少を通じて実質輸出は押し下げられるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.